

チャーリー・ブルツ選手、第4戦5位入賞で初ポイント獲得

力強いレースペースとドライタイヤでのステイアウト戦略が功を奏す

TEAM GOH（チームゴウ、代表：池田和広、監督：芳賀美里）は、5月23日に鈴鹿サーキットで開催された全日本スーパーフォーミュラ選手権第4戦において、チャーリー・ブルツ選手が予選20番手から決勝5位へと大きく順位を挽回。デビュー4戦目にして、待望の初ポイント獲得を果たしました。厳しいグリッドポジションからのスタートとなった一戦でしたが、変化するコンディションのなかで高いレースペースと的確な戦略を発揮し、TEAM GOHにとって大きな意味を持つ結果を手に入れました。



Rd.	サーキット	周回数	気温	路温	天気	予選	決勝
4	鈴鹿サーキット	31	20℃	24℃	曇り～雨	P20	P5

※天気は決勝スタート時

午前の予選では、前日のフリー走行時より約20℃も低下した路面温度の影響を受け、タイヤのウォームアップに苦戦。車両バランス自体には一定の手応えがあったものの、アタックラップでタイヤを十分に作動温度域へ持ち込むことができず、本来のパフォーマンスを発揮し切れないまま20番手という結果に終わりました。

迎えた午後の決勝では、スタート時にクラッチ温度の上昇によって発進が遅れ、序盤から苦しい展開を強いられます。しかし、タイヤにしっかりと熱が入ってからは力強いペースを見せ、追い上げを開始。前方集団に対するアンダーカットを狙ってミニマムウィンドウでのピットインを敢行しました。ニュータイヤを機能させたブルツ選手は、その後も積極的なオーバーテイクを重ね、着実にポジションを上げていきます。

一方、レース後半にはコース西側を中心に路面状況が悪化、雨脚が強まる兆候のなかでセーフティカーが2度導入される展開となりました。各車がウェットタイヤへの交換かドライタイヤでのステイアウトかの判断を迫られるなか、TEAM GOHはドライタイヤで走り切る戦略を選択。この判断が功を奏し、さらなるポジションアップにつながりました。

2度目のセーフティカー明け、残り4周でリスタートが切られると、ブルツ選手は攻めの姿勢を維持、ファイナルラップではオーバーテイクシステムを活用し130R手前で39号車を攻略し、5番手でチェッカーを受けました。予選でのタイヤウォームアップやスタートには課題を残した一方、車両の競争力、チームの戦略、そしてドライバーの粘り強い走りが噛み合い、今後への期待を感じさせる価値ある初ポイント獲得となりました。



◆監督 芳賀美里 のコメント

「予選では Q1 突破ならず、後方からのスタートとなりました。決勝ではスタートで少し出遅れ、最後尾から追上げる厳しいレースとなりましたが、最終的には 5 位でフィニッシュすることができました。

SC が入り、雨も降り出すなど、コンディションが目まぐるしく変化する非常に難しい展開となり、さらに残り周回数も限られる状況でした。他チームがレインタイヤへ交換する中、こちらはスリックタイヤで走り切る作戦を選択。その判断が功を奏し、非常に難しい状況ではありましたが、チーム全員でコンディションを信じて戦った結果、初ポイント獲得につなげることができました。

明日もレースが続きますので、今日の結果をしっかりと次につなげられるよう、予選から全力で挑みたいと思います。引き続き、応援よろしく願いいたします」

◆ドライバー チャーリー・ブルツ選手のコメント

「予選は、金曜日より大きく気温が下がったことでタイヤのウォームアップに苦しみました。クルマのバランス自体は良かったのですが、アタックラップまでにタイヤを十分な状態へ持っていくことができず、そこが課題として残りました。一方、決勝ではタイヤが機能し始めてから非常に良いペースで走ることができ、アンダーカット戦略やオーバーテイクもうまく決まりました。フロアダメージを抱えているなかで競争力を示せたことは、とてもポジティブです。

終盤は雨やセーフティカーでより難しい状況になりましたが、チームはスリックタイヤで走り続けるという素晴らしい判断をしてくれました。ピットストップや戦略も含め、チーム全体として最大限の仕事ができたと思います。デビュー 4 戦目で初ポイントを獲得できたこと、そして 5 位という結果は本当にうれしいです。

レースペースには自信があるので、今後は特に予選でタイヤをしっかり機能させることが重要だと思っています。チームとはとても良い雰囲気です。家族のような環境の中で戦えていることをうれしく思います。最後のラップでのオーバーテイクは特に楽しく、130R 手前でポジションを奪えた瞬間は最高でした。一方で、スタートについてはまだ改善が必要です。プラクティスでは進歩が見えていたので、今回の原因をしっかりと分析し、次はさらに良いスタートを決めたいと思っています」

◆チーフエンジニア 柏木良仁 のコメント

「FP2 最後の予選シミュレーションのフィーリングが良かったので、大きくセットは変えずに予選へ臨みましたが、タイヤをうまく使い切れず、本来のパフォーマンスを引き出せませんでした。路面温度が前日よりかなり低かったことも影響した可能性があります。明日に向けては、その部分を改善していきたいと思います。

決勝では、前の車に引っかかっていたこともあり、ミニマム周回でのピットインを選択しました。結果的にアンダーカットが成功し、ポジションを上げることができました。終盤は雨とセーフティカーで難しい展開となりましたが、ドライタイヤでステイアウトする戦略を選択。2 回目のセーフティカー中に路面が乾く方向へ向かったことは、我々にとって非常にポジティブでした。

リスタート後もドライタイヤの優位性を活かしてポジションを守り、最終ラップには 130R 手前で 39 号車をオーバーテイクすることができました。明日に向けては、まず予選パフォーマンスを改善し、より前方からスタートして、戦略だけではなく純粋な競争力でポイントを獲得することを目指したいと思います」

以 上